

参 考 资 料

## 参考資料 1 地元関係者との意見懇談会とパブリックコメント

### 1 地元関係者との意見懇談会

#### (1) 日時・対象

①令和元(2019)年12月1日(日)

「館長とまち歩き講座」参加者15人

②令和元(2019)年12月2日(月)

仙台藩白老元陣屋資料館友の会6人



地元関係者との意見懇談会

#### (2) テーマ

今後の陣屋跡及び元陣屋資料館の在り方について

#### (3) 主な意見

##### ①保存管理について

主 な 意 見	白老町の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>植物の調査をして欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生調査や樹木管理マニュアルの策定により、取扱いを定める予定である。</li> </ul> <p>(第3章第10節、第7章第3節)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>少なくとも内曲輪の堀割には通年で水を張るべき。</li> <li>堀割の清掃作業をしっかりとやるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>堀割への導水はフシコウトカンベツの保存管理とも関係し、過剰な滞水や植物の繁茂への対策を一体的に検証する必要がある。</li> </ul> <p>(第5章第2節、第7章第3節、第9章第2節)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>赤松の後継樹の育成を早急に行うべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き育成に努める。</li> </ul> <p>(第5章第2節、第7章第3節)</p>

##### ②活用について

主 な 意 見	白老町の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>町民の関心を高めるため、武家(侍)の文化も積極的に取り入れ、オープンな元陣屋資料館を目指すべき。</li> <li>史跡を活用したイベントをさらに増やすべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幕末北辺防備の遺跡の認知度を高めると同時に、親しみや愛着につながる取組が必要と考えている。</li> </ul> <p>(第8章第1節、第2節)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>サムライコスプレなど、ゲームの場にならないか。</li> <li>冬期間の体験イベントの開催を充実して欲しい。</li> <li>野点なども加え、抹茶の日の回数を増やしたい。</li> <li>年間を通じて特別展などの展示会や体験イベントを増やして欲しい。</li> <li>史跡を広く使う意味でも、ドサンコ(道産子)などを飼えないか。</li> <li>史跡が子供や若者の交流の場にならないか。</li> <li>流鏝馬や弓道ができないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座やレクリエーションなど、多彩な事業の実施と継続が、本史跡の本質的価値に関する認知を広げるきっかけになると考えている。</li> </ul> <p>(第8章第2節)</p>

主 な 意 見	白老町の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・素晴らしい史跡なので、元陣屋資料館とセットで案内した方が良い。</li> <li>・映像などによる見所を紹介すべき。</li> <li>・ホスピタリティを高めるためにも、解説員とすぐ分かるユニホームが必要である。</li> <li>・解説員の増員と研修機会の充実を図って欲しい。</li> <li>・元陣屋資料館に関わる様々なボランティアの増員が必要だと思う。</li> <li>・入館者増への新たな対応と新会員の掘り起こし、人材育成による若返りが望まれる。</li> <li>・解説の勉強会を毎月行うなど、学習機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する訪問者を受入れ、正確に本史跡の本質的価値を伝えるための人的、設備的な拡充が必要と考えている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(第8章第2節)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インスタ映えするようなスポットを作れないか。</li> <li>・春のサクラや堀割のアヤメ、秋の紅葉をもっとPRしてはどうか。</li> <li>・もっと町を挙げて史跡をPRすべき。</li> <li>・インターネットの駆使を検討して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な手法による発信を継続的にを行い、本史跡に触れられる機会の創出や増加に努める。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(第8章第2節)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・有料ボランティア制度の導入の検討をして欲しい。</li> <li>・解説だけではなく、あらゆることに対して声掛けをもっと頼ってもらって良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本史跡の発信力を高め、学びや交流の拠点化を図るだけでなく、白老町内の様々な文化団体や組織との連携を推進する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(第8章第2節)</p>

### ③整備について

主 な 意 見	白老町の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物を復元して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復元に向けた調査は継続して行い、確かな資料が集まった場合は整備の検討に移る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(第9章第2節)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩釜神社及び愛宕神社の参道を早期に改修すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本史跡の本質的価値を的確に巡れるように、周遊路の再整備を検討する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(第9章第2節)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内板やサイン、ベンチ、東屋など施設の老朽化対策を早く行うべき。</li> <li>・すぐにでも多言語看板を作成すべき。</li> <li>・夜間照明を設置すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導線計画やサインマニュアルを策定するとともに、便益施設の要否や再配置を判断していく。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(第9章第2節)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的好奇心を煽るような整備ができないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本史跡の本質的価値の顕在化を確実に行うため、サイン類などの再整備について検討していきたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(第9章第2節)</p>

主 な 意 見	白老町の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示室に手すりの設置をすべき。</li> <li>・資料館入口階段に手すりを設置すべき。洗面所にお湯が出ると良い。</li> <li>・館内が寒いとの声がよく聞かれるので、床暖など暖房機器を充実させたい。</li> <li>・館内が全体的に暗いので、人感センサーの導入など早期に改修できないか。</li> <li>・ドアも重いし窓口も狭く暗いので、改修すべき。</li> <li>・展示が古いので、映像を駆使するなどしたリニューアルを行うべき。</li> <li>・展示が繋がっていないのでは。</li> </ul>	<p>・本史跡のガイド施設であるという位置付けを踏まえ、来訪者の利便性や展示及び保存環境の改善を検討していく。</p> <p style="text-align: right;">(第9章第2節)</p>

#### ④運営体制について

主 な 意 見	白老町の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウポポイとの強い連携による周知と回遊性の向上を検討すべき。</li> <li>・交通手段の確保が重要ではないか。</li> <li>・街中に誘導看板が少な過ぎる。</li> </ul>	<p>・本史跡の保存・活用が全庁的な取組として発展するように、庁内所管課との情報共有や意見交換を重ねていく。</p> <p style="text-align: right;">(第9章第2節、第10章第2節)</p>

## 2 パブリックコメント

### (1) 日時

令和2(2020)年12月9日(水)～令和3(2021)年1月8日(金)

### (2) 寄せられた提出書数・意見数

0枚0件

## 参考資料2 史跡白老仙台藩陣屋跡保存管理計画

昭和 61(1986)年 3月策定

史蹟白老仙台藩陣屋跡保存管理計画から基本構想、実施方針、整備構想を以下に引用し記載する。

### III 史跡白老仙台藩陣屋跡保存管理基本構想

環境整備事業は昭和 44 年度から、土地公有化事業は昭和 45 年度から国及び道の補助を受けて実施している。この間、史跡周辺の開発が著しく進展したことから、指定時に比べ、史跡周辺の状況は大きく変貌している。これらの状況を踏まえて、今後の史跡の保存管理に万全を期するため、下記の事業を行う。

- 1 事業実施主体  
白老町
- 2 事業実施期間  
昭和 44 年度から昭和 59 年度まで実施された事業をまとめて、さらに昭和 65 年度までの計 20 ヶ年をめどとする。
- 3 現状変更
  - (1) 指定地内での住宅、倉庫等の工作物の新築、増改築は原則として認めない。
  - (2) 指定地内での伐木、植林は、現在の植生等の自然環境を損なわない程度においてみとめる。
- 4 実施する主な事業
  - (1) 指定地の拡大及び一部解除
  - (2) 民有地の買収
  - (3) 陣屋郭内にある遺構の平面復元
  - (4) 苑路、公衆便所・ベンチ等の利便施設整備
  - (5) 陣屋の東側を流れる旧ウトカンベツ川、西側の蛇行する古川等の周辺の自然環境の整備

### IV 史跡白老仙台藩陣屋跡保存管理実施方針

- 1 計画の概要
  - (1) 指定地の拡大及び一部解除  
陣屋跡の東側を固めるためにウトカンベツ川の改修工事が昭和 57 年におこなわれ、史跡指定地の東辺部が不明確になったため、図 4 のとおり指定地の拡大及び一部解除をする予定である。  
町道陣屋線道路区域の境界及びウトカンベツ川の東岸まで広げる。ただしウトカンベツ川 1 号橋以北は川の西岸とし、約 150 ㎡分を解除する。また同様に南側についても道道白老線まで広げる。
  - (2) 民有地の買収  
対象となる民有地の大半は、すでを買収を終わっている。今後、主として指定拡大地の買収をすすめ、さらに所有者との利害調整から、当分の間公有化の対象外としていた地域についても、順次すすめていく。
  - (3) 陣屋郭内にある遺構の平面復元  
古図等の記録、遺構確認調査の成果をもとにおこなう。後述の整備構想によって実施する。
  - (4) 苑路、利便施設整備  
後述の整備構想によって実施する。
  - (5) 陣屋周辺自然環境の整備  
後述の整備構想によって実施する。
- 2 事業費  
6 億 1 千円程を予定する。(昭和 44 年度から昭和 59 年度までに実施された事業費を含む。)
- 3 その他  
この陣屋跡の意義を広く紹介するため、昭和 59 年度に仙台藩白老元陣屋資料館を建設した。展示内容をさらに充実し、一般の郷土学習に供する。

### V 史跡白老仙台藩陣屋跡整備構想

- 1 基本方針
  - 1) 遺跡について  
遺跡としては、土塁(外郭、内郭)、建物跡(井戸跡等を含む)および堀が主なものである。また東側の旧河川、西側の水流も明らかに防御施設として利用されたものである。つまり「環濠城塞」の形をとっているため、これら河川、水流も陣屋の重要な遺構として整備しなければならない。
  - 2) 整備の仕方  
この陣屋跡は、環濠・土塁、建物跡などの人工的施設、河川などの防御施設として利用された自然地形、それをとりまく雑木林や丘陵などの自然という、人工と自然の巧みな併存から構成されている。整備の際にはそれぞれの部分の特徴を生かすことが必要である。人工部分ではできるだけいねいな整備を、自然部分は自然のままの、あるいはそれを強調するような整備を考慮する。すなわち内郭の内側や外郭の土塁と西側の川にはさまれた部分は、張芝など積極的に手を加えた整備をおこない、西側の雑木林などはできるだけ完全な維持をはかる。ただし下草などは刈り取って地表面はきれいに維持することが必要である。  
また、この遺跡の規模はあまり大きくなく、大規模構造物もないのでこの陣屋の歴史に直接関係のない施設、景観上目立つ施設を新しく加えることは避けなければならない。  
説明板、案内板、照明、便所等の附帯施設についても十分なデザイン上の配慮が必要である。それらのデザインは原則として、簡素で重厚なものとする。一つ一つがばらばらの恣意的なデザインは避けなければならない。
  - 3) アプローチ  
本遺跡へのアプローチは、高速道路から来る場合も、ポロト方面から来る場合も、敷地の南あるいは南西を通る道路がもっぱら利用される。遺跡の正面入口も南端にある。従って、主要進入路は南の正面入口とし、主要なパーキングを入口付近に設ける。実際には入口正面の駐車は雰囲気損なうので、川の東岸道路沿いなどが考えられよう。また見学コースから考えて、資料館近くの駐車場も有効と考えられるので、ここにも設ける。

#### 4) 補助的手段による遺跡の解説

陣屋の完全な復元はもとより不可能で、ことに構築物は平面復元にたよらざるをえない。それはそれで一つのすぐれた歴史表現の方法であるが、具体的な建物などがいないために陣屋もとの姿について、一般来訪者の中にはイメージを描きにくい人がいることが考えられる。そこで陣屋の全体像について、また部分の詳細について、資料館で模型あるいは絵図によって推定される姿を、できるだけリアルに提示することが必要である。平面復元などの象徴的な整備手法は、こうした説明と一体になって効果を発揮する。

### 2) 各部の整備方針

#### 1) 土塁

土塁は調査にもとづいて、可能なかぎり原形の復元をはかり、これを芝で覆う。

#### 2) 建物跡

建物跡は地表に平面復元をおこなう。建物の間取りをたどることができるので、間取りに対応する土台と柱を表現するような復元を施す。いずれも石材ないしそれに類する材料を用いる。

内郭と外郭は表地の仕上げが異なる。外郭は、周囲の雑木林などと一体に扱い、より自然的な張芝とする。一方内郭は土塁に完全に囲まれたより人工的な空間として砂利敷、安定処理を施した土の仕上げとする。このため、両者で建物跡の仕上げが若干異なってくる。いずれも土台および柱跡を石ないしコンクリートを使って砂利敷のなかに表現することは同じであるが、外郭ではこれが芝生の中に置かれるので問題はない。しかし内郭では砂利敷、また土の仕上げの中に置かれるので、建物跡の周囲を芝生で囲み、この中に建物跡を表現する。なお、地表を砂利敷とする場合は、通路、内郭の砂利と建物跡の砂利とは色の異なったものを用いる。

井戸跡に関しては、原形について相当程度正確な推定ができれば復元を考えたいが、現有の資料では無理なため、やはり、平面復元を行う。

#### 3) 藩士墓地

道道白老大滝線をはさんで陣屋跡の西側に位置する。飛地指定となっているため、周囲を民有地で囲まれている。陣屋跡から墓地につながる土地を確保して、回遊路を設けたい。

#### 4) 堀

堀はできるだけ原形を復元して保存をはかることとするが、必要最小限の護岸措置はやむを得ない。護岸措置を行う場合は、石積あるいは、擬木を使い、雰囲気維持をはかる。

なお、旧河川跡は水をため、かつその水が循環するよう堀の他の部分と通じるような措置をほどこす。また旧河川のあたりは、現在雑草に覆われていて近づくことがむずかしいが、雑草、雑木を取り払い適切な芝を張り、植樹を行って整備をはかる。

#### 5) 通路

##### ア 正面入口

正面の土塁が門の役割をはたしているため、これが正面に来るように広場等を整備する。正面の小緑地に石の標識をおき、左側の緑地に説明版をおく。

##### イ 回遊路

西の雑木林、内郭西の草園、北の桜園の中に、幅1メートル程度の回遊路を設ける。仕上げは砂利敷または安定処理を施した土の仕上げとする。火薬庫跡、塩釜神社への通路も同様とする。

#### 6) 利便施設

見学者のための案内板、ベンチ、照明、公衆便所、水呑場、ゴミ箱などが必要である。これらは小さなものであるが、雰囲気への影響が大きいので、デザインには慎重な配慮が必要である。概して素朴で頑丈なものを目指すべきである。

なお、ここにそれぞれの施設のスケッチを附しているが、実施設計にあたっては、さらに検討が必要である。

##### ア 公衆便所、水呑場

正面入口付近と内郭の北側の2カ所におく。和風の切妻屋根とし（構造はブロックあるいは鉄筋コンクリート）、まわりに植樹をしてあからさまに目にふれるのをさける。なお便所には水呑みの施設をもうける。

##### イ 説明板、案内標識

正面入口左手の緑地に史跡全体の説明版をおく。また正面の緑地に史跡全体の表札ともいうべき標識をおく。これは史跡につりあう石材を使って重厚なものでなければならない。敷地内の要所要所に案内標識をたてる。

##### ウ 照明、ベンチ、ゴミ箱

夜間の利用、防犯のために照明を適宜配置する。ベンチ、ゴミ箱についても、素朴で目立たぬものを使用する。

##### エ 植栽

内郭、外郭の建物跡周辺には植栽はむしろ控え、史跡を強調するようにする。

一方内郭北側（資料館西側）の緑地は地表を芝生で覆い、十分な植樹を行う。その場合ウトカンベツ川の西側にも桜を植えるなら遺跡との一体感が強められ、より効果的であろう。

内郭西側の土塁と川に挟まれるあたりは、遺跡に因む植物（たとえば萩など）を集めた草園として整備をはかる。

また、陣屋造営時に仙台藩士が植えたといわれる赤松が、陣屋内及び塩釜神社に4本現存している。これらは、いわば陣屋跡のシンボルとなっているが、樹齢（推定）140年を数え、老齢による衰弱が著しいため、延命をはかるとともに後継樹の育成を始める。

### 3) 管理方針

整備は、自然部分は自然のまま、あるいはそれを強調するような、人工部分も張芝、安定処理を施した土、砂利敷きなど自然を生かした方法をとっている。このため管理に失敗すると、雑草が生じるなどして荒廃し易く、維持管理が必要である。

この維持管理にあたっては、主として史跡管理者である町当局がおこなう。あわせて小中学校や、社会教育団体に働きかけて、その活動の一環に草園等の手入れを取り入れ、文化財に対する理解の手助けとする。

### 参考資料3 史跡指定地番及び追加指定地番一覧

#### 1 昭和41年3月3日史跡指定

地番	地目	面積(㎡)	所有区分	地番	地目	面積(㎡)	所有区分
字白老 683	—	67,739.1	国有地	706-1の内	畑	568.6	民有地
684	—			769-5の内	山林	12,929.0	民有地
683	—			769-8の内	原野	4,416.5	町有地
684地先	—			769-9の内	牧場	4,049.6	民有地
700の内	畑	211.6	民有地	769-41の内	用水路	43.0	町有地
				計	89,957.4㎡ ※後の実測面積では 91,573㎡		

#### 2 昭和51年7月8日史跡追加指定

地番	地目	面積(㎡)	所有区分	地番	地目	面積(㎡)	所有区分
字白老 680-2	畑	12,183.0	民有地	字白老 703-1	畑	289.0	民有地
680-4	用水路	570.0	民有地	769-9	牧場	17,550.0	民有地
681-1	原野	5,294.0	民有地	769-11	原野	1,884.0	民有地
681-2	原野	345.0	民有地	769-12	原野	2,298.0	民有地
681-4	原野	1,651.0	民有地	769-15	原野	5,138.0	民有地
681-5	公道	311.0	民有地	769-64	原野	6,620.0	民有地
681-6	原野	1,875.0	民有地	769-65	原野	4,983.3	民有地
681-7	原野	5,593.0	民有地	769-25	原野	440.0	民有地
681-8	原野	651.0	民有地	769-26	原野	1,391.0	民有地
681-9	原野	2,932.0	民有地	769-28	原野	667.0	民有地
681-10	原野	1,452.0	民有地	769-29	悪水路	1,391.0	民有地
681-11	原野	745.0	民有地	769-39	原野	161.0	民有地
681-12	宅地	891.0	民有地	769-40	用水路	147.0	民有地
681-13	公道	1,000.0	民有地	769-47	畑	1,718.0	民有地
681-14	畑	1,800.0	民有地	769-49	雑種地	19,484.0	民有地
681-15	公道	181.0	民有地	769-55	山林	33,808.0	民有地
681-16	公道	310.0	民有地	769-56の内	山林	1,937.0	民有地
681-17	公道	199.0	民有地	769-60	畑	5,169.0	民有地
681-18	公道	958.0	民有地	769-61	宅地	232.0	民有地
681-21	公道	112.0	民有地	769-82	畑	487.0	民有地
681-22	公道	252.0	民有地	769-83	宅地	255.0	民有地
630-1	原野	29,995.0	民有地	国有未開地	—	58,713.0	国有地
632	山林			河川用地	—	47,458.0	国有地
682-1	畑	1,803.0	民有地			43,371.0	町有地
				計	326,694.3㎡		

### 3 平成7年11月8日史跡追加指定

地番	地目	面積(m <sup>2</sup> )	所有区分	地番	地目	面積(m <sup>2</sup> )	所有区分
陣屋町 625-36 西地先	—	1,639.10	国有地	緑丘 3-625-22	原野	589.68	町有地
687-1 東地先	—			3-625-51	原野	236.00	町有地
679-1 西地先	—	11,697.51	国有地	4-625-36	雑種地	374.29	国有地
681-36 東地先	—			4-630-24	畑	14.93	町有地
686-1	原野	755.54	民有地	4-630-28	畑	3,528.84	町有地
687-1	原野	2,003.70	民有地	4-687-2	雑種地	24.00	国有地
686-36	原野	132.82	民有地	字白老 632-2	畑	1,490.99	町有地
681-74	道路	4.65	町有地	632-4	畑	972.45	町有地
681-75	道路	5.83	町有地	632-5	道路	622.67	町有地
682-4	畑	1.64	町有地	679-3	原野	1,683.98	町有地
686-1 東地先	—	437.15	国有地	緑町 700-2	畑	480.13	国有地
687-1 西地先	—			704-4	畑	11.00	国有地
緑丘 2-625-1	原野	10.26	町有地	705-2	畑	342.50	国有地
				計	27,059.66 m <sup>2</sup>		

### 4 平成7年11月8日史跡一部指定解除

地番	地目	面積(m <sup>2</sup> )	所有区分
陣屋町 681-19 東地先	—	▲194.29	国有地



## 参考資料4 白老元陣屋の経営などに関する文献

白老元陣屋に関わる文献については、白老元陣屋の現状や藩士たちの動向、白老場所の地勢や状況について記したものが多く、その造営に関しての詳細な日付などを読み取ることもできた。主な内容を以下に転載する。

### (ア)『見分見書』 安政2(1855)年11月

- 一、ユウフツハシラオイサルノ間箱館ヨリ七日路ユウフツヨリ子モロマテハ廿一日
  - 一、ユウフツハ四方平原曠野ニテ箱館近所ナレドモ寒地且湿地水モ不宜
  - 一、荒海ニテ入津ノ舟主トモ近辺ニテ日和見テ上日和ノ時入最間懸ニテモ無然場所
  - 一、漁者鱸小跳蛙ナト箱館ヨリ出働ノ者沢山入込
  - 一、人家一切無之出働ノモノ漁屋ノミ冬越年ノモノ一兩人留主ノミ居
  - 一、松前侯ヨリ頭役士分一人徒士二人足輕五人
  - 一、雁鴨白鳥鶴鹿熊狐澤山居
  - 一、土地ノ景色ハ宜シ
- 右之通承候 可申候

### (イ)『三好武三郎書状』 安政2(1855)年11月21日

ユウフツ元御陣屋ヲシラオイ江被相転度由之義始心付之ヶ条別紙六通之通及調差出申候処  
(中略)

元陣屋御場所替表立御届振之義者江戸表江御届不罷成箱館江書面ニ而モ御届罷成候方可然趣与頭向山源太夫殿御内談ニ御座候間、下書吟味仕別而相達候様可仕比段共相達申候以上 十一月廿一日

### (ウ)『御請書案』 安政3(1856)年5月5日

御請書案

東地シラライ

字ウトカンベツ

- 一 元陣屋地 三拾七万五千坪余
- 一 同絵図面壹枚

右者御名元陣屋地所御改之上御渡相成奉請取候尤境界之義者御別紙絵図面朱引之通東タン子コツ山西之方シラライ川手前山際限り北ウトカンベツ山惣構と可仕旨被渡奉承知候乃御請書如件  
安政三年辰年五月五日

四竈英馬 判  
高橋健吉 判  
相原助三郎 判  
今野謙吉 判

御請書案

東地シラライ

- 一 秣場地所

表口壺里程奥行シラライ山迄

但ウトカンベツ御陣屋構方ユウフツ境ベツベツ川迄海岸方凡三拾町程山入

- 一 絵図面壹枚

右者御名元陣屋附秣場御別紙絵図面之通御渡相成奉請取候尤表ロウトカンベツ陣屋山際よりベツベツ川迄海岸方凡三拾町程水源山入之万境といたし東西川筋シラライ山迄境界与相心得若標示杭腐朽いたし建替候節者御場所詰御調役江申立可請御差図且秣場之内ニおゐては人共山川漁獵等は

迄之通可相心得旨被仰渡奉承知乃御請書如件

安政三辰年五月五日

四竈英馬 判  
高橋健吉 判  
相原助三郎 判  
今野謙吉 判

(エ)『蝦夷地警固御人数調』 安政3(1856)年5月

御備頭一、武頭一、目付、歩目付二、小人目付六、帳付二、御勘定所役統取一、御勘定所役一、  
鑓士七、大筒討七、御雇大筒討七、医師二、螺吹一、武頭手前留付二、御預足輕三十、大工一、  
手木一、人足十二、出入司手前物書一、従卒

(オ)『蝦夷地御用日誌』 安政3(1856)年8月晦日

来月二日当陣屋御上棟の節祭式御取行に付士風一統え御酒、御肴被下置候条、御日昼四ツ時揃にて  
罷出候様可有之 以上 八月晦日 秀之進  
尚以シラライ口人等一統江も御酒被下旨其心得首尾可有之、此段も御渡し候 以上  
右の通九月朔日三宅方より参り申候 直々御勘定人手前え相廻申上候  
来る二日御上棟の義申渡置候処指支の節有之追て定日の義可申渡事申来候処来る三日御上棟の御  
伺祝御取おこないに付士風一統之御酒、御肴被下置候条同日朝四ツ時揃にて罷出候様可有之 以上

(カ)『御組松前蝦夷地警固御用被仰付候二付諸事勤番留帳』 安政3(1856)年12月ほか

- 一、領分ニ泊り出立之節、蝦夷おとなと申者、陣羽織にて案内ニ罷出申候事、  
四月十八日、シラライ御場所着、會所ニ泊り翌十九日假御陣屋會所、魚板藏ニ住居罷在申候事、  
御武頭居間ハ疊敷ニ圍、御歩目附兩人十疊敷ニ圍、御醫師兩人六疊敷ニ圍、別々之間ニ御座候事、  
御勘定方御役人ハ御普請場、假御陣屋被相立、野陣同様ニ仕居申候事、
- 一、御組方ハ壹坪ニ壹人ツゝ割合ヲ以被指置候事  
(中略)
- 一、御備頭衆着已來、御門番所勤仕候御番人三人ニ而夜中時拍子木打廻、火觸廻番、不寝番ニ勤仕  
候、尤御門夜中士凡共ニ通用不相成候、御用ニ而罷通り候者ハ、御帳合ヲ以、相通申候事、
- 一、御本陣御備頭衆江小使兩人ツゝ、晝夜相詰居申候事、
- 一、御勘定所江小使三人ツゝ晝夜相詰居申候事、  
右ハ詰ノ御門并搦手御門番兼役ニ相勤申候事、
- 一、御武頭留附方へ小使兩人ツゝ晝夜相詰居申候事、  
(中略)
- 一、拙者共元御陣屋詰三十七人之處、五人アツケシ出張御陣や江被相廻、三十貳人ニ罷成居候處、  
壹人死亡ニ相及、御人数都合六人不足人にて、公邊向不相濟事にて、番代人六人相立候事、
- 一、正月七日武藝稽古始ニ而、稽古場にて御酒・御肴被下置申候事、
- 一、三月九日初卯之御規式ニ付、御本陣江明六ツ時揃ニ而、御酒・御肴被下置候事、
- 一、同廿六日方修羅前并稽古御取立ニ罷成居申候事、  
(中略)
- 一、御陣屋御敷地江一ノ宮御建立ニ付、士凡一統御寄進申上候事、
- 一、御神事之節ハ、御神酒・赤飯被下置候事、
- 一、甲冑ニ而修羅前備立御備頭衆ニ御見分ニ相入申候事、
- 一、交代ニ罷成御首尾合相成
- 一 御簇警固爲、 與兵衛 十三郎 綱五郎 右三人御備立附被仰付候事、

(中略)

一、八月十五日、八幡宮御神事ニ付、警固被仰付候事、右御神事ニ付、御人数一統江赤飯御酒被下置、其節當所村方へも赤飯・御酒被下置候事、

一、八月遠藤彌佐儀、百目抱討被、仰付候、首尾好相濟、其節御武頭衆方腕貫被下置候、終始無滞相濟候ニ付、爲御祝儀方御酒被下置候事、

一、九月十一日、御陣屋中御普請御出来ニ付、御武頭衆御移ニ罷成、拙者共儀翌日取移申候、  
(後略)

(キ)『目付多川仲之丞日記』 安政4(1857)年4月7日ほか

安政四年四月七日条

御陣屋御家作向拝見御困向等も同様也、御家作は惣て出来御困之土手江柵を相廻候儀は未だ惣出来者無之、表御門左右柵相出来候斗ニ而其外は相出不申此節切角御大工共働居候而無程出来かと存候、御困向等之義は随分御立派事に候、御長屋々々も同様也

安政四年五月十七日条

一於エトロフー 御立方相成候御材木等ハ南部大畑ニテ御切組被相廻、過十一日当初江着ニ相成候  
安政四年七月十一日条

一於アッケシー 未ダ天井板、縁板等、船着無之、半途ニ相成候

(ク)『蝦夷地御警固方ニ付箱館表御用立候御入料金高調帳』 安政4(1857)年5月

一、金千七百拾両也

但白老御勘定所江御廻金

一、金九百拾八両三歩也

但白老御陣屋御普請御入料於箱館御用達野口屋又蔵江直々相渡候様白老詰役々申遣候ニ付相渡候分

一、金三百六拾六両貳歩貳朱也

代貳貫百貳拾壹文

但白老御陣屋ニ而御用立候夜具家具等御買上金右高相渡候様同所役々方送り申来相渡候分

(ケ)『蝦夷地道中記録』 安政4(1857)年6月18日

○御陣屋左右小川也

○此水詰御門前深堀へ引入常ニ水充滿

○後ろ二十間程隔、築地根通小川流也。此川越て一丁程隔北え峰長山有。是より奥五里程隔

○シラライ山、大山有。是迄御持場也。又東ハ御陣屋腰を廻り小川有。又三丁程隔山有。是山も峰続北に長く後ろ西山え御本丸。うしろ三丁斗隔つ。塩釜宮御遷一社御建立有。是より東の山合三、四丁の谷沢也。又南は同、北に峰長小山有。此間も二里余奥へ二丁斗の沢也。其山より南は方七、八里の野原なり。此内に奥山より出る小川数々有。此川々海落口にて鮭、鱒或は小魚の漁有。且山中は鹿数多熊、狐有。産物は鮭、鱒、雑魚、昆布、鹿皮等、材はモミ、ツカ、カツラ其外に雑木は檜、栗、ハンノ木等甚多シ。土地は昔タルマイ嶽始て焼崩の時、彼山の土降来と云。赤、白の砂土三尺程深し、底は黒土也。此道辺二、三里に限る。此焼土は土石共至て軽く皆浮て流るる也。故に諸作は植て不熟、山合或川押の跡等砂地有、是等を畑に開、大根、大角豆等仕付見るに相応に熟し候

(コ)『東蝦夷日誌』 安政4(1857)年8月10日

シラライ(白老)(従ホロベツ會所八里廿七丁、陸地七り、従境目六里十七丁五間、制札、備蔵、會

所、通行や、勤番所、板くら五、茅くら、馬や、漁や) 土地東南向、素(洲)濱、船沖懸り、土地平地なり。一里餘上に到る。山有。辯天社・阿彌陀堂(慈覺大師作、三尊彌陀)。名義、シラウは蛇の事也。此地に多くが故號し也。土人(文政改、七十二軒、三百三十餘人。安政改、八十二軒、三百九十九人)。産物、鯛・鮭・昆布・鱒有。鮓。雜古粕・鹿皮・椎茸・海鼠多し。又紫根多し。惣て此邊北西山を受、巳午向濱にして暖氣也。是より沙濱なり

△又是より上(十二丁)仙臺家陣屋(安政甲寅年(元年)立り)有。西に白老川を被処、三好監物繩張にて築き、旭岡と號く。川水を曳、沼地を掘て用水をなし、是に鹽竈社を勧請し、邸中より眺望する處を以て十景を作る(啓明山霞、磐井川櫻、宮川夕立、中川夏月、大野萩、新川氷、泉橋眺望、月峰鹿、泉川雪、旭岡神祇)

是皆三好氏の功業なり

宮柱大きく立てて 祈りける 照日のおかに 君が八千代を 三好監物

(サ)『御預足輕岡元武治日記』 安政4(1857)年9月18日ほか

一 十八日朝ヨリ天気快晴同日御陣屋御普請荒々出来ニ付御悦之ため御人数壹銃江御酒頂戴仕候夫ヨリ蝦夷共江百五拾人斗江於御玄官前御酒極下候何レ茂蝦夷共酒酔ニ相成歌おとり様之事仕候得共一円ニ相里かり不申事致大キ賑々敷候夫ヨリ頭々ニ玄米壹膳取糍壹膳葉煙式把ツツ極下候事其外女の子せがち共ニハむさび極下候事

一 三日曉半時頃大震朝ヨリ天気宜候得共此朝之寒サ之義ハ寒中逆茂無御座寒サ候夫ヨリ御人数壹銃統大手御門外ニ而調練御座候所同朝之寒サニ而大キニ迷惑仕候其後朝五ツ時頃相成追欠山ニ相登り候処私杯ハ御勢子廻し方相成候所鹿式疋符負仕指上申候此日御陣壹宇位相出候御勢子ハ蝦夷人百人余も極相出其外会所番人拾人相出候事

此日鹿之數百三拾五尾討留ニ相成御帳附御座候夫ヨリ御陣屋御人数壹銃統江御酒極下候事此日御人数上下二百四五拾人ニ御坐候但御勢子共ニ調練之節ヨリ詰め士方ハ馬ニ乗指小簾相立罷出候事外之侍方ハ皆陣羽織ニ而相出候私共ハ皆々野羽織陣笠ニ而相出し候得者真先ニ金丸之御簾相立仕候所何レモ賑々敷事可申様無御座候

(シ)『入北記』 安政4(1857)年9月15日ほか

十五日、海浜四里半を歩してコイトエ、それより又四里半を歩し白老の会所に宿す。途中地味焼け土多く、開墾にはよろしからず。仙台陣屋より一条弥三郎使者、に来る。鎮台の居の間にて逢いになる処、弥三郎敷外に一礼して間内に入り候処、失礼にては無之哉と用人より問合せになる。一条問合せの間違ひにて誤り候段申断りてすむ。使者勤の時仙台押掛其外贈り物あり。

十六日、仙台陣屋江鎮台始石場斉容其外役々入り込みになり候処、備頭三好武三郎其外用談數刻に及ぶ。此の三好は両三年前迄は、江戸屋敷留守居を勤め、少し学才ある人にて、書生杯を愛し、諸藩の様子等承り、為国の為なけき事をそろそろいたしたる小奇士なり。蝦夷地等にも望をかけし人にて、態度此の地に詰め来るなり(詰人数三百人計りと云とも上下三百人はなしと推察す)陣屋一通見分等ありて砲術等一覽

(ス)『入北記』 安政4(1857)年9月16日

十六日 晴

一、今日敵藩陣営見分ノタメ滞留 巳時鎮台齒薄ヲ整へ御陣屋へ参ラレケル 僕辰前ヨリ参リ待チ居リタリ 篤ト陣屋ノ形状ヲ一見セシニ營柵向大抵出来ス 尤場所モ広クシテ 海岸ヨリ隔ツコト十四丁 其間大路ヲ築キ 兩傍ニ並松ヲ植シテ松種ヲ蒔キ置キタリ 西海岸マシケ左竹公ノ本陣ヨリハ雲泥ノ違ヒナリ 唯惜ムベキハ地味至テ宜シカラズ 大抵焼砂多ク開墾ニハ容易ナラザル処ナリ 御備頭三好武三郎等ノ嘶ニテ聞シニ 御陣屋後口ニハ可ナリノ土地一万石位アリテ 当年野菜ヲ植シニ大ニ宜シキ由 然レバ山麓ニハ地味ノ宜シキ所コレアルヤニ見ヘタリ 喜ベキ

トコロナリ 併 シヤマニ クシリノ地味ニハ至ルマジ 午後大筒、小筒ノ調練ヲ鎮台見分ニ入り  
シガ 別ニ仕損ジモナク可ナリ手際モ宜シク見ヘタリ

(セ)『仙台藩白老経営書』 万延元(1860)年8月

白老元御陣屋は同所ヨリも段々申上候要害宜敷所御普請等も宜出来公儀衆始外人見聞仕候者何も  
浚に居候様子ニ御座候間御安心被成下度候廻り太手并新川等不残出来用水揚口も見立之通出来候  
由御家作雪除木舞迄懸候事ニ吟味仕御入料迄も格別ニ御入増にも不罷成御下知高の内少々御劣ニ  
相成候取調にて只今と罷成り候方は七月末日を八月中迄の白老ニハ無御座候

(中略)

拙者共志願ヲ以御陣屋之内馬場并星場築立献申上候処四釜英馬殿ヨリ御遣寄持成候ニ思召ヲ以御  
金三百疋一統へ酒戴被仰付旨英馬殿江相達申候事

六月ヨリ拙者共一統ニテ御門目付之処、折廻升形土手築立献上仕候ニ付、為御賞ト金拾兩御樽御肴  
共ニ頂戴被仰候事

(ソ)『白老郡引継書』 明治2(1869)年11月

仙台本陣家建物

本陣	梁間六間半	桁間十間半	一棟
兵屋	同五間	同十一間	
	同七間半	九間	
	同六間	同七間半	三棟
厩	三間	同五間	一棟
稽古場	同二間	同七間	一棟
長屋	同七間半	同十七間	一棟
麴室	同四間半	同五間	一棟
板蔵	同三間	同十間	
	同三間	同四間	式棟
火薬蔵	同一間半	同式間	一棟
稽古場	同式間半	同三間	一棟
門番所	同一間半	同三間	
大砲入場	同二間	同六間	一棟
鉄砲見張場	同一間	同一間	一棟
塩釜社	同一間半	同二間	一棟
長家	同五間	同十二間	
	同五間	同十一間	式棟

但此二棟多少明ニ相成候分

冠木門 老所

(中略)

御備蔵 御備馬

御備蔵 梁間三間 桁行四軒 壹棟

御備馬 式百五十五疋 内 牡百廿七疋 牝百廿八疋

(タ)「伊達氏蝦夷地警衛持場備筒調書」 年次不詳

蝦夷地御警衛御持場江御備筒等左之通

白老元御陣屋

一擦木流六百目唐銅御筒車臺附式挺

- 一 下易流三百目唐銅御筒車臺附壹挺
  - 右何も小道具共
- 一 玉薬火縄、先以壹挺ニ付四百發宛之高被相備、段々被相下、火薬者於彼地ニも調合為仕候方と吟味仕、向々申渡置候
  - アツケン御陣屋
- 一 坂本流五貫目唐銅御筒車臺附貳挺
- 一 外記流百目御筒摺臺附壹挺
  - 右何も小道具共
- 一 玉薬火縄前同断
  - 子モロ御陣屋
- 一 坂本流唐銅三百目御筒車臺附壹挺
- 一 櫛木流鐵貳百目唐銅御筒車臺附貳挺
  - 右何も小道具共
- 一 玉薬火縄前同断
  - クナシリ御陣屋
- 一 坂本流唐銅十貫目御筒車臺附壹挺
- 一 同七貫目御筒車臺附壹挺
- 一 櫛木流鐵貳百目御筒車臺附四挺
- 一 三貫目ハント御筒車臺附壹挺
- 一 坂本流百目御筒摺臺附壹挺
- 一 同流百目抱筒壹挺
  - 右何も小道具共
- 一 玉薬火縄前同断
  - エトロフ御陣屋
- 一 坂本流唐銅拾貫目御筒車臺附壹挺
- 一 三貫目ハント御筒車臺附壹挺
- 一 坂本流唐銅五貫目御筒車臺附貳挺
- 一 櫛木流鐵貳百目御筒車臺附三挺
- 一 不易流五拾目御筒壹挺
- 一 諸流十匁御筒五挺
- 一 四匁唐銅御筒貳拾挺
  - 右何も小道具共
- 一 玉薬火縄前同断
  - 以上

(チ)「白老場所様子大概書」『東蝦夷地各場所様子大概書』 文化6(1809)年

白老

- 一、会所、御雇支配人 番人一〇人但桁行一六間梁間五間
  - 此内所の番屋々々え一人二人宛相廻申候
- 一、下宿所二ヶ所 但桁行一五間同七間 梁間四間同三間
- 一、板蔵二ヶ所 但桁行四間同四間 梁間三間同三間
- 一、塩鮭切蔵一ヶ所 但桁行一〇間梁間三間
- 一、弁財天宮一ヶ所
- 一、白善光寺持堂宇一ヶ所 桁行二間梁間二間
  - 御本尊三尊弥陀行基菩薩の作なり、文化六年善光寺を相廻る
- 一、蝦夷家数三〇軒 此人数一一三人内男五五人女五八人 内乙名役三人 小使役三人
  - (後略)

## その他の文献

### (ア)『北海道史蹟名勝天然紀念物調査報告書』 大正13(1924)年

#### 五、來歴

安政二年四月仙臺藩は東蝦夷地白老より知床岬に至る一帯の地並島嶼の警衛を命ぜられ元陣屋を勇拂に出張陣屋を根室、國後、擇捉に置くべく豫定せられしが同藩は調査の結果勇拂は不便なりとし白老を以て之に代へんことを請ひ許可せられ同三年備頭氏家秀之進、武頭四竈英馬等を遣はし壘を白老に築きて元陣屋と爲す。同四年三月箱館奉行村垣淡路守巡回し來り檢分す。同年備頭三好武三郎(後監物と稱す名は清房)來り交代す。野作東部日記(市川十郎著)に曰く、陣屋南に向ひ其地二萬坪餘、其外匝の地三十七萬坪、陣營の東に宇土勘山あり、川沿間より出て水頗る清冷、又北に茶師古津山あり、陣營の東西丘上に仙臺の秣場の榜示を建つと。北方數町の丘上に鹽竈神社を東方數町の丘上に愛宕神社を勸請す。又東蝦夷日誌(松浦武四郎著)に據れば、陣屋内より眺望する所を以て十景を作る啓明山霞、磐井川櫻、宮川夕立、中川夏月、大野萩、新川水、泉橋眺望、月峰鹿、泉川雪、旭岡神祇是なり。武三郎の歌に曰く

宮柱ふとしく建てゝいのりける 照る日の岡に君が八千代を

安政六年十一月白老、十勝、厚岸より根室西別境迄、國後、擇捉(紗那を除く)を藩領として賜はる尚白老を元陣屋として經營す。明治元年夏奥羽の騒亂により兵を撤し、爾後廢壘となり、其地を官有として保存し今日に至る

#### 六、現状

陣屋跡は白老川支流ウトカンベツ川と無名の川との間に在り南方の入口に土壘を存し之より本壘まで約百二十間本壘は圓形にして壘、濠共合せ直徑約七十間あり荒蕪に委すと雖も當時の規模を見るを得べし。又數多の松苗を道路の兩側及び壘内に栽植せし由なれども今は壘内に八株、壘外に一株存在するのみ其成長佳良なり

鹽竈神社の跡は北方丘岬にあり縦約十二間、横約六間を均らして社地とし今該神社の礎石を存す又後に建たる小社及び松樹目通周回四尺七寸のもの一株現存す。其地今細川侯牧場内に屬す愛宕神社跡は東方丘上にあり地を均して建てたる跡並に文久元年の石燈籠の破片等存す此處は出願者あるも許可せず官有地として保存せり

陣屋の南西數町白老村山本萬吉所有の畑の中に四基の墓あり左の如し

仙臺手木惣兵衛墓 安政四年六月二十五日

仙臺宮城岡田彦太郎墓 安政四年十二月二十三日

仙臺荒町正藏墓 安政五年四月七日

仙臺梅澤傳左衛門小者惣八墓 安政五年

七八年前白老村に在る仙臺人約二十名相會して仙臺人會を組織し爾後毎年六月十五日鹽竈神社の祭典を執行し又盂蘭盆には前期の墓に參詣すと云ふ

#### 七、保存條件

仙臺藩が本道に盡しゝ遺跡として現状の儘保存すべし、陣屋の附屬たる鹽竈神社跡、愛宕神社跡並に墓も共に保存せば最も可なり。管理は村役場をして適宜の方法を採らしむべし

### (イ)『仙台藩元陣屋用地の引継ぎ事情』 令和2(2020)年

安政3(1856)年5月5日、白老元陣屋地所の引渡しが行われた。その規模、陣屋地所37万5千余坪、附屬の秣場地所が「表口老里程、奥行シラライ山迄」とある。

引渡しに際して箱館奉行所は、秣場については在来住民の山川漁獵などの慣行利用の容認、また、殊には白老川沿いなどに「人留山」なる立入禁止区域を設定による在来住民権利の嚴重な保護を条件づけた。

地所設定の範囲について元陣屋側に不満が残り、防衛機能を高めるためには「シラライ川向山フヘツ境迄」に拡張して欲しい旨を願い出た。これに対して箱館奉行所は「要害地ニ見込置候義者不苦」、つまり要害地と見なす分には差支えなしと回答した。

# 参考資料5 本史跡及び周辺地域における植生一覽

No.	名分類	科名	種名	環R	北R	北B	陣屋 (S46)	萩の里 (H7)	ポロト (H14)	ウヨロ (H18)	
1	シダ植物	ヒゲノカズラ科	トウゲシバ					●			
2		トクサ科	イヌスギナ				●				
3			オクエゾスギナ				●				
4			トクサ							●	
5			スギナ					●		●	
6			ミズドクサ						●	●	
7			エゾフユノハナワラビ					●	●	●	
8		ゼンマイ科	ゼンマイ				●	●	●		
9		ヤマドリゼンマイ					●	●	●		
10		コバノイシカグマ科	オオレンシダ					●		●	
11			イヌシダ					●		●	
12			ワラビ						●	●	
13		ミズワラビ科	クジャクシダ					●		●	
14			イワガネゼンマイ							●	
15		シシガシラ科	シシガシラ							●	
16		チャセンシダ科	トラノオシダ					●			
17		オシダ科	オシダ					●		●	
18			シラネワラビ						●		
19			オクヤマシダ						●		
20			ミヤマベニシダ					●	●		●
21			ホソバナライシダ (ナライシダ)						●		●
22			ミヤマイタチシダ						●		●
23			サカゲノイデ						●		●
24			ジュウモンジシダ						●		
25			リョウメンシダ					●			
26			ヒメシダ科	ニッコウシダ					●	●	●
27				メニッコウシダ							●
28		オオバショリマ						●			
29		ヒメシダ						●	●	●	●
30		ミヤマワラビ							●		●
31		イヌガンソク						●	●		●
32		メシダ科	クサソテツ					●	●	●	●
33			コウヤワラビ					●	●	●	●
34			ホソバシケシダ					●	●	●	●
35			ミヤマシケシダ						●		●
36			ハクモウイノデ					●			
37			ミヤマシダ								●
38			エゾメシダ					●	●		
39			ヘビノネコザ					●	●		●
40			イッポンワラビ								●
41			ヤマイヌワラビ						●		
42		イヌワラビ					●				
43		ウラボシ科	ミツデウラボシ							●	
44	裸子植物	マツ科	トドマツ (アカマツ・アカトドマツ)				●	●			
45			アカエゾマツ				●				
46			アオトドマツ				●				
47			カラマツ					●		●	
48			キタゴヨウマツ					●			
49			バンクスマツ					●		●	
50			ストロブマツ				B		●		
51	クロエゾマツ					●					
52	ヒノキ科	イトヒバ				●	●				
53	イチイ科	イチイ				●	●				
54	クルミ科	オニグルミ				●					
55	被子植物	ヤナギ科	ドロノキ(ドロヤナギ)					●	●	●	
56			イヌコリヤナギ				●	●	●	●	
57			エゾノキヌヤナギ						●		
58			キヌヤナギ							●	●
59			バッコヤナギ					●			●
60			エゾノカワヤナギ							●	
61		エゾノバッコヤナギ (エゾノヤマネコヤナギ)						●	●	●	
62		オノエヤナギ					●	●	●	●	
63		カバノキ科	ウダイカンバ					●	●	●	●
64			シラカンバ (シラカバ)					●	●	●	●
65			サウシバ					●	●	●	●
66			ケヤマハンノキ (エゾヤマハンノキ)					●	●	●	●
67			ハンノキ						●	●	●
68			ダケカンバ					●	●		●
69	ミヤマハンノキ							●	●	●	
70	アサシデ						●				
71	アサダ						●		●		
72	ブナ科	グリ				●	●		●		
73		カシワ				●	●		●		
74		ミズナラ						●		●	
75	ニレ科	ハルニレ				●	●		●		
76		コブニレ				●	●		●		
77	クワ科	カラハナソウ				●	●		●		
78		ヤマグワ				●	●		●		
79	イラクサ科	クサコアカソ				●	●		●		
80		アカソ				●	●		●		
81		アオミズ				●	●		●		
82		ムカゴイラクサ				●	●		●		
83		エゾイラクサ				●	●		●		
84		ミス								●	
85	タデ科	ハナタデ				●	●		●		
86		エゾノギシギシ			A 3	●	●		●		
87		アレチギシギシ			D	●			●		
88		ナガバギシギシ			A 3				●		
89		ノダイオウ		NT					●		



No.	名分類	科名	種名	環R	北R	北B	障屋 (S46)	萩の里 (H7)	ポロト (H14)	ウヨロ (H18)	
90	被子植物	タデ科	スマダイオウ			D	●				
91			スイバ				●				
92			ヒメスイバ				A 3	●	●	●	●
93			アキノウナギツカミ					●	●	●	●
94			ナカバウナギツカミ							●	
95			イシミカフ					●	●	●	●
96			ママコシノシリヌグイ								●
97			イヌタデ						●	●	●
98			サナエタデ							●	
99			ウラジロタデ						●		
100			オオイタドリ					●	●	●	●
101			タニソバ					●	●		●
102			ミチヤナギ								●
103			ミズヒキ					●	●		●
104			ミゾソバ					●	●	●	●
105			ヤナギタデ(マタデ)						●		●
106			オオイヌタデ						●		
107			ハルタデ						●		
108			ネバリタデ					●	●		
109			ヤノネグサ					●	●		●
110			オオヤマフスマ					●	●		●
111			ノハラツメクサ				A 3			●	
112			ホソバツメクサ					●			
113			ダイアンサス(ナデシコ)						●		
114			フシグロ						●		●
115		ケフシグロ					●				
116		ノミノフスマ								●	
117		ウシハコベ						●			
118		カラフトホソバハコベ								●	
119		ミヤマハコベ						●			
120		コハコベ				A 3				●	
121		アケボノセンソウ						●			
122		マツヨイセンノウ				A 3				●	
123		ムシトリナデシコ				A 3			●	●	
124		オランダミミナグサ				B		●	●	●	
125		オオミミナグサ						●	●	●	
126		ミミナグサ					●	●		●	
127		ヒユ科		イノコスチ(ヒカゲイノコスチ)						●	
128		モクレン科		キタコブシ				●	●	●	
129				ホオノキ				●	●	●	
130		マツブサ科		チョウセンゴミシ				●	●	●	
131		カツラ科		カツラ				●	●	●	
132		キンポウゲ科		アキカラマツ				●	●		
133				カラマツソウ							●
134				エゾカラマツ(ミヤマアキカラマツ)				●			
135				キツネノボタン							●
136				ヤマキツネノボタン				●			
137				ミヤマハンショウヅル				●			
138				エゾトリカブト				●	●		●
139				ルイヨウショウマ				●	●		
140				ヒメイチゲ				●	●		●
141				ハイキンポウゲ				●	●		●
142		シラネアオイ科		シラネアオイ				●			
143			シロバナアイラネアオイ					●			
144		メギ科		ヒロハノヘビノボラズ				●		●	
145		スイレン科		コウホネ					●	●	
146				エゾノヒツジグサ				●			
147		センリョウ科		フタリシズカ				●			
148			ヒトリシズカ					●			
149		マタタビ科		サルナシ(コクワ)				●	●		●
150				マタタビ					●		●
151		オトギリソウ科		オトギリソウ				●	●	●	●
152				コケオトギリ					●	●	●
153				サワオトギリ					●	●	
154				トモエソウ				●	●		●
155				ミズオトギリ				●	●	●	
156				ヒメオトギリ				●			
157		モウセンゴケ科		モウセンゴケ				●	●		
158		ケシ科		ムラサキケマン				●			
159				エゾキケマン							●
160				クサノオウ				●			
161				エゾエンゴサク				●			
162		アブラナ科		オオバタネツケバナ					●		●
163				タネツケバナ							●
164				コンロンソウ				●	●		●
165				ハマハタザオ				●			
166				ハルガキヤマガラシ			A 3		●		●
167				オランダガラシ			A 2				●
168				ナズナ					●		
169				ヤマハタザオ					●		●
170		ユキノシタ科		ノリウツギ(サビタ)				●	●	●	●
171				エゾアジサイ					●		●
172				イワガラミ					●		
173				トリアシショウマ				●	●		●
174				ツルネコノメソウ							●
175				ネコノメソウ							●
176				エゾネコノメソウ							●
177				エゾクロクモソウ							●
178				ヤマネコノメソウ			N t	●	●		
179				チシマネコノメソウ					●		
180			ツルアジサイ(ゴトウヅル)				●	●		●	
181		バラ科		スダヤクシュ					●		●
182				キンミズヒキ					●		●
183				ヒメキンミズヒキ							●

No.	名分類	科名	種名	環R	北R	北B	陣屋 (S46)	萩の里 (H7)	ポロト (H14)	ウヨロ (H18)	
184	被子植物	バラ科	ヤマブキショウマ				●	●	●	●	
185			ヘビイチゴ				●	●		●	
186			エゾクサイチゴ					●			
187			オオダイコンソウ					●	●		●
188			ダイコンソウ					●	●		●
189			エゾノコリンゴ						●		
190			ズミ(コリンゴ)						●	●	
191			ヒメヘビイチゴ								●
192			オニシモツケ					●	●	●	●
193			ミツバツチグリ					●	●	●	●
194			キヅムシロ					●	●	●	●
195			ミツモトソウ					●	●	●	●
196			エゾノミツモトソウ					●	●	●	●
197			ヒロハノカワラサイコ							●	
198			クロバナロウダ					●			
199			カマツカ(ウシゴロシ)					●	●		
200			ワタゲカマツカ							●	●
201			エゾノウラミズザクラ					●			
202			ケウワミズザクラ					●			
203			エゾヤマザクラ					●	●		●
204		ウラミズザクラ					●				
205		シウリザクラ						●			
206		カスミザクラ								●	
207		ミヤマザクラ					●	●	●	●	
208		ノイバラ					●	●	●	●	
209		エゾイチゴ								●	
210		クマイチゴ					●	●		●	
211		クロイチゴ						●			
212		エビガライチゴ						●		●	
213		ナワシロイチゴ					●	●	●	●	
214		ナガボノシロワレモコウ					●	●	●		
215		アズキナシ					●	●		●	
216		ナナカマド					●	●		●	
217		マルバシモツケ						●			
218		ホザキシモツケ					●	●	●	●	
219		スモモ						●		●	
220		ナシ						●			
221		ヤブマメ(ウスバヤブマメ)					●	●		●	
222		ヤブハギ						●			
223		ヤハズソウ					●	●	●	●	
224		エゾヤマハギ					●	●	●	●	
225		イヌエンジュ						●			
226		コメツブウマゴヤシ						●			
227		ハリエンジュ(ニセアカシア)						●			
228		ムラサキツメクサ(アカツメクサ)						●	●	●	
229		シロツメクサ						●	●	●	
230		セイヨウミヤコグサ							●		
231		クサフジ					●	●			
232		クス					●				
233		カタバミ科	エゾタチカタバミ				●	●		●	
234			カタバミ							●	
235		フウロソウ科	ミツバフウロ					●			
236			ゲンノショウコ				●	●	●	●	
237		ミカン科	キハダ				●	●			
238			サンショウ					●		●	
239		ニガキ科	ニガキ				●	●		●	
240		ウルシ科	ツタウルシ				●	●	●	●	
241			ヤマウルシ				●	●		●	
242		カエデ科	イタヤカエデ(エゾイタヤ)				●	●		●	
243			アカイタヤ(ベニイタヤ)				●	●		●	
244			ハウチワカエデ					●			
245			オオモミジ							●	
246			ヤマモミジ				●	●	●	●	
247		ツリフネソウ科	ツリフネソウ				●	●	●	●	
248			キツリフネ					●		●	
249		モチノキ科	アオハダ					●			
250			ツルウメモドキ				●	●		●	
251			オニツルウメモドキ(イヌツルウメモドキ)					●		●	
252		ニシキギ科	ニシキギ				●	●		●	
253			ツルマサキ					●			
254			ツリバナ				●	●		●	
255			マユミ				●	●	●	●	
256		ミツバウツギ科	ミツバウツギ				●	●		●	
257		ツゲ科	フッキソウ				●	●		●	
258			エゾクロウメモドキ				●	●			
259		クロウメモドキ科	クマヤナギ				●	●			
260			ノブドウ				●	●	●	●	
261		ブドウ科	ヤマブドウ				●	●		●	
262			ツタ					●		●	
263		シナノキ科	シナノキ				●	●			
264		ジンチョウゲ科	ナニワズ					●			
265		グミ科	トウグミ(ナツグミ)					●			
266			アキグミ					●	●		
267			アカネスミレ				●	●			
268			サクラスミレ				●	●		●	
269			オオタチツボスミレ					●		●	
270			フイリミヤマスミレ				●	●		●	
271		スミレ科	シロスミレ						●		
272			ツボスミレ				●	●	●	●	
273			エゾノタチツボスミレ					●			
274			タチツボスミレ				●	●		●	
275			ケタチツボスミレ				●	●			
276			アカフタチツボスミレ					●			
277		ミソハギ科	エゾミソハギ				●		●	●	

No.	名分類	科名	種名	環R	北R	北B	陣屋 (S46)	萩の里 (H7)	ポロト (H14)	ウヨロ (H18)	
277	被子植物	ウリ科	ミヤマニガウリ							●	
278		アカバナ科	イワアカバナ				●	●		●	
279			エゾアカバナ					●			
280			アカバナ							●	
281			メマツヨイグサ				A3	●	●	●	●
282			ウシタキシソウ						●		
283			タニタデ					●	●		
284			ミズマタソウ						●		
285			ヤナギラン						●		
286			スギナモ科	スギナモ							●
287			ミズキ科	ミズキ							●
288		ウコギ科	ゲヤマウコギ (オニウコギ)					●	●		
289			エゾウコギ							●	
290			コシアブラ						●		●
291			ウド					●	●		●
292			ダラノキ					●	●		●
293			ハリギリ (センノキ)					●	●		●
294			イワミツバ				A2	●			
295			エゾノヨロイグサ						●	●	
296			アマニュウ					●			
297			オオバセンキュウ					●	●		●
298		シヤク (コジャク)						●			
299		エゾニュウ					●			●	
300		ドクセリ							●	●	
301		ミヤマセンキュウ					●	●		●	
302		ミツバ					●			●	
303		ヤブニンジン					●	●		●	
304		セントウソウ						●		●	
305		オオチドメ								●	
306		セリ					●			●	
307		サワゼリ								●	
308		オオカサモチ					●	●		●	
309		ウマノミツバ					●	●		●	
310		タニミツバ					●	●		●	
311		トウヌマゼリ (ホソバヌマゼリ)					●			●	
312		ノラニンジン				A3				●	
313		カノツメソウ (ダケゼリ)						●		●	
314		キャブジラミ					●	●		●	
315		イチャクソウ科	イチャクソウ					●		●	
316		ベニバナイチャクソウ								●	
317		ツツジ科	ハナヒリノキ					●	●		
318			レンゲツツジ								
319			エゾヤマツツジ (ヤマツツジ)					●	●		●
320			ムラサキキシソウ					●			
321			ホツツジ						●		●
322		コウスノキ (エゾカクミノスノキ)					●				
323		サクラソウ科	オカトラノオ				●	●		●	
324	ヤナギトラノオ							●		●	
325	クサレダマ						●	●		●	
326	コナスビ							●		●	
327	ナガエコナスビ						●				
328	クリソウ						●				
329	ハイノキ科	サワフタギ				●					
330	エゴノキ科	ハクウンボク				●	●		●		
331	モクセイ科	アオダモ (コバノトネリコ)				●	●		●		
332		ヤチダモ					●	●	●	●	
333		イボタノキ					●	●			
334		ミヤマイボタ					●	●		●	
335		ハシドイ (ドスナラ)				B	●	●		●	
336	レンギョウ						●				
337	リンドウ科	エゾリンドウ				●	●	●	●		
338		ハナイカリ				●	●				
339		フデリンドウ					●	●			
340		アケボノソウ					●	●		●	
341	ツルリンドウ						●		●		
342	ガガイモ科	ガガイモ				●	●		●		
343		イケマ					●	●		●	
344	アカネ科	ホソバノヨツバムグラ				●	●	●	●		
345		キクムグラ					●	●		●	
346		オオバノヤエムグラ					●			●	
347		クルマムグラ						●		●	
348		エゾノカワラマツバ						●			
349		オオバノヨツバムグラ					●	●			
350	オククルマムグラ						●				
351	ヒルガオ科	ネナシカズラ				●					
352	ムラサキ科	ノハラムラサキ			A3			●			
353	クマツツラ科	ムラサキシキブ				●	●		●		
354		クサギ					●	●			
355	シソ科	クルマバナ				●	●		●		
356		ミヤマトウバナ					●	●		●	
357		イヌトウバナ					●	●		●	
358		ナギナタコウジュ					●	●	●	●	
359		シロネ					●	●		●	
360		エゾシロネ					●	●		●	
361		ヒメシロネ					●	●		●	
362		コシロネ						●	●	●	
363		ハッカ					●				
364		ヒメジソ					●		●	●	
365		ヤマジソ			NT		●				
366		ウツボグサ					●			●	
367	ミヤマウツボグサ					●					
368	ヤマハッカ					●	●		●		
369	ヒメナミキ					●	●				
370		エゾタツナミソウ				●					

No.	名分類	科名	種名	環R	北R	北B	陣屋 (S46)	萩の里 (H7)	ポロト (H14)	ウヨロ (H18)	
371	被子植物	シソ科	ヤマタツナミソウ				●				
372			エゾナミキソウ	VU			●				
373			エゾイヌゴマ					●	●	●	
374			イヌゴマ					●			●
375		ツルニガクサ					●			●	
376		ハマウツボ科	ヨツバシオガマギク				●				
377			シオガマギク				●				
378		ナス科	イヌホオズキ						●		
379			ウンラン								
380		ゴマノハグサ科	エゾゴメグサ					●		●	
381			コシオガマ					●			
382			ピロードモウズイカ				A3				
383		ハエドクソウ科	ハエドクソウ					●		●	
384		オオバコ科	オオバコ					●		●	
385			エゾオオバコ					●			
386			ヘラオオバコ					●			
387			エゾクガイソウ				A2		●		
388			ヒヨクソウ					●			
389		スイカズラ科	クロミノウグイスカグラ							●	
390			ケヨノミ						●		
391			エゾニワトコ					●	●	●	
392			ガマズミ					●	●	●	
393			ミヤマガマズミ					●	●	●	
394		タニウツギ					●		●		
395		レンブクソウ科	カンボク					●			
396			ケカンボク					●			
397			レンブクソウ					●			
398		オミナエシ科	オミナエシ					●	●		
399			オトコエシ					●	●	●	
400		キキョウ科	ツリガネニンジン					●	●	●	
401			ツルニンジン					●	●	●	
402			バアソブ			VU		●	●	●	
403			シラゲシャジン					●	●	●	
404			ツリガネギキョウ					●	●	●	
405			サワギキョウ					●	●	●	
406			キタノコギリソウ					●	●	●	
407			ヤマハハコ					●	●	●	
408			ノブキ					●	●	●	
409			オトコヨモギ					●	●	●	
410		ヨモギ						●	●		
411		イヌヨモギ					●	●	●		
412		オオヨモギ (エゾヨモギ・オオヨモギ)					●	●	●		
413		エゾノコンギク					●	●	●		
414		ネバリノギク				A3	●	●	●		
415		ユウゼンギク				A3	●	●	●		
416		エゾゴマナ					●	●	●		
417	シラヤマギク					●	●	●			
418	アメリカセンダングサ				A3		●	●			
419	ミミコウモリ						●	●			
420	ヨブスマソウ					●	●	●			
421	ミヤマヤブタバコ					●	●	●			
422	エゾノキツネアザミ					●	●	●			
423	チシマアザミ					●	●	●			
424	エゾノサワアザミ					●	●	●			
425	エゾヤマアザミ					●	●	●			
426	オオノアザミ					●	●	●			
427	タカアザミ					●	●	●			
428	アメリカオニアザミ					●	●	●			
429	フランスギク				A2		●	●			
430	ヒメムカシヨモギ				A3	●	●	●			
431	ヒメジョオン				A3	●	●	●			
432	ヘラバヒメジョオン				B	●	●	●			
433	キク科	ヨツバヒヨドリ					●	●	●		
434		ヒヨドリバナ					●	●	●		
435		サワヒヨドリ (ミツバサワヒヨドリ)					●	●	●		
436		カセンソウ						●	●		
437		オグルマ						●	●		
438		センボンヤリ (ムラサキタンポポ)					●	●	●		
439		アキタブキ (オオブキ)					●	●	●		
440		アラダハンゴンソウ (キヌガサギク)				B	●	●	●		
441		オオハンゴンソウ				A2		●	●		
442		ハンゴンソウ					●	●	●		
443		ヒトツバハンゴンソウ						●	●		
444		ノボロギク				A3	●	●	●		
445		メナモミ						●	●		
446		ヒメチチコグサ				B		●	●		
447		オオアワダチソウ				A2		●	●		
448		アキノキリンソウ					●	●	●		
449	コガネギク (ミヤマアキノキリンソウ)					●	●	●			
450	ヤナギタンポポ						●	●			
451	ニガナ						●	●			
452	ハナニガナ						●	●			
453	イワニガナ					●	●	●			
454	ヤマニガナ					●	●	●			
455	トゲヂシャ				B	●	●	●			
456	コウゾリナ					●	●	●			
457	ハチジョウナ					●	●	●			
458	エゾタンポポ					●	●	●			
459	セイヨウタンポポ				A2	●	●	●			
460	ヤクシソウ					●	●	●			
461	オモダカ科	ヘラオモダカ				●					
462	ヒルムシロ科	ヒルムシロ							●		
463		オヒルムシロ					●				
464	ユリ科	ノビル				●					

No.	名分類	科名	種名	環R	北R	北B	障屋 (S46)	萩の里 (H7)	ポロト (H14)	ウヨロ (H18)	
465	被子植物	ユリ科	エゾネギ				●				
466			ギョウジャニンニク					●		●	
467			ノギラン							●	
468			ネバリノギラン					●	●		
469			アサツキ						●		
470			スズラン						●		
471			ホウチャクソウ					●	●		
472			チゴユリ					●	●		
473			オオチゴユリ						●		
474			エゾゼンテイカ					●	●	●	
475			ヤブカンゾウ				B	●			
476			コバギボウシ							●	
477			タチギボウシ					●	●		●
478			オオウバユリ					●	●		●
479			キバナノアマナ					●			
480			マイヅルソウ					●	●		●
481			ツクバネソウ						●		
482			ミヤマナルコユリ						●		
483			ヒメイズイ					●			
484			オオアマドコロ						●		
485			ユキザサ					●	●		
486			ヤマジノホトトギス					●	●		
487			ミヤマエンレイソウ					●	●		
488			シラオイエンレイソウ						●		
489			オオバナノエンレイソウ					●	●		●
490			アオミノエンレイソウ						●		
490			バイケイソウ					●			
491			キジカクシカ科	マイズルソウ				●			
492			ヒガンバナ科	ヒガンバナ			D		●		
493				スイセン					●		
494			アヤメ科	ノハナショウブ				●	●	●	
495				カキツバタ		NT				●	
496				ヒオウギアヤメ					●		
497				キショウブ				A2	●	●	
498			イグサ科	イ(イグサ)				●	●		●
499				イスイ(ヒライ)					●	●	●
500				クサイ					●	●	●
501				コウガイゼキショウ					●		
502				ホソコウガイゼキショウ					●		
503				アオコウガイゼキショウ					●		●
504				ハリコウガイゼキショウ							●
505				ヒメコウガイゼキソウ							●
506				ヒロハノコウガイゼキショウ						●	
507				ヌマボソソウ						●	
508				スズメノヤリ						●	●
509				ヤマスズメノヒエ					●		
510				ツユクサ科	ツユクサ				●	●	
511			ホシクサ科	ニッポンイヌノヒゲ				●			
512			イネ科	ハネガヤ				●	●		●
513	キツネガヤ					●			●		
514	カモジグサ					●					
515	ミノゴメ								●		
516	コスカグサ					A3	●	●	●		
517	ヌカボ						●	●	●		
518	エゾヌカボ						●		●		
519	ミヤナヌカボ						●				
520	ヤマヌカボ						●				
521	スズメノテッポウ								●		
522	オオアワガエリ					A3	●	●	●		
523	コブナグサ						●	●	●		
524	ヤマカモジグサ						●	●	●		
525	ハルガヤ					A3	●	●	●		
526	ホガエリガヤ						●		●		
527	ホッスガヤ								●		
528	ササガヤ								●		
529	ヌマガヤ						●				
530	ノガリヤス						●	●	●		
531	イワノガリヤス						●	●	●		
532	ヒメノガリヤス						●	●	●		
533	ヤマアワ						●	●	●		
534	カモガヤ					A3	●	●	●		
535	タツノヒゲ						●	●	●		
536	アキメヒシバ							●	●		
537	メヒシバ							●			
538	オニウシノケグサ					A3	●	●	●		
539	ウシノケグサ						●	●			
540	オオウシノケグサ					B	●				
541	オオトボンガラ						●				
542	トボンガラ							●			
543	ヒロハノウシノケグサ						●		●		
544	ヒロハノドジョウツナギ								●		
545	ドジョウツナギ								●		
546	ヒメウキガヤ								●		
547	アズマネザサ						●				
548	エゾノサヤヌカグサ							●			
549	コウボウ						●	●	●		
550	アシボン							●			
551	ススキ						●	●	●		
552	ムラサキススキ						●				
553	イブキヌカボ							●			
554	コシノネズミガヤ					●		●			
555	ミヤマネズミガヤ						●				
556	ネズミガヤ						●	●			
557	オオネズミガヤ						●	●			

No.	名分類	科名	種名	環R	北R	北B	陣屋 (S46)	萩の里 (H7)	ポロト (H14)	ウヨロ (H18)
558		イネ科	ヌカキビ				●	●	●	●
559			ニコゲヌカキビ				B		●	●
560			クサヨシ				A 3	●		●
561			ヨシ					●	●	●
562			ツルヨシ							●
563			スズメノカタビラ					●		
564			オオスズメノカタビラ				A 3			●
565			ミゾイチゴツナギ							●
566			コイチゴツナギ				B	●		
567			ナガハグサ				A 3	●	●	●
568			チシマザサ					●	●	
569			エゾミヤコザサ (ミヤコザサ)					●	●	●
570			アキノエノコログサ					●	●	●
571			キンエノコロ					●	●	●
572			ムラサキエノコログサ					●	●	
573			エノコログサ					●	●	●
574			シバ							●
575			クマザサ					●	●	
576			スズタケ (シノダケ)					●	●	●
577			ショウブ					●		
578			マムシグサ (コウライテンナンショウ)					●	●	●
579			ミスバショウ					●		●
580			ミクリ		NT	N t		●		
581			ヒメガマ			N t		●		
582			ガマ						●	
583			オオカワズスゲ					●		●
584			ショウジョウスゲ							●
585		ヒカゲスゲ						●	●	
586		ヒエスゲ (マツマエスゲ)						●	●	
587		ホソバヒカゲスゲ					●			
588		ヒメシラスゲ						●	●	
589		ヒメスゲ					●	●	●	
590		ヤチカワズスゲ							●	
591		コジュズスゲ						●	●	
592		イトアオスゲ							●	
593		アオスゲ					●	●	●	
594		ハリガネスゲ					●			
595		ヒゴクサ						●		
596		ミノボロスゲ							●	
597		エナシヒゴクサ					●	●	●	
598		ヒラギシスゲ							●	
599		ヒメカンスゲ					●			
600	被子植物	エゾハリイ		EN				●		
601		タガネソウ						●	●	●
602		オニナルコスゲ						●		
603		ナルコスゲ								●
604		タニガワスゲ								●
605		ピロードスゲ							●	●
606		カワラスゲ (タニスゲ)							●	●
607		オオカサスゲ						●	●	●
608		ゴウソ						●	●	
609		サドスゲ								●
610		ヒメゴウソ (アオゴウソ)						●	●	
611		アゼスゲ							●	
612		サギスゲ						●		
613		ハクサンスゲ						●		
614		アズマスゲ						●		
615		イトヒカゲスゲ						●		
616		ヤマテキリスゲ				N t		●		
617		カヤツリグサ							●	
618		ウシクダ								●
619		ヒメクダ								●
620		エゾハリイ						●		
621		ハリイ						●		
622		オオヌマハリイ (ヌマハリイ)						●		
623		クロヌマハリイ						●		
624		シカクイ						●		
625		ウキヤガラ						●		
626		フトイ								●
627	サンカクイ						●		●	
628	カンガレイ						●			
629	アブラガヤ							●	●	
630	ツルアブラガヤ						●			
631	クロアブラガヤ						●	●	●	
632	ミズガヤツリ						●			
633	アイバソウ						●			
634	ネジバナ						●	●	●	
635	サルメンエビネ							●		
636	ササバギラン							●		
637	アオチドリ							●		
638	オニノヤガラ						●	●		
639	ノビネチドリ							●		
640	スズムシソウ							●		
641	コケイラン							●	●	
642	オオヤナギソウ							●		
643	トンボソウ						●	●		
合計		104科	643種	7種	4種	57種	81科 359種	104科 400種	44科 135種	92科 342種

「植物目録一覧」凡例

「環R」

環境省レッドリストのカテゴリ（ランク） 「環境省ホームページ(2020年)」

絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
絶滅の恐れのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

「北R」

北海道レッドリストのカテゴリ 「北海道ホームページ(2019年)」

絶滅種 (EX)	すでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅種 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧ⅠA類 (Cr)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅡB類 (En)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧Ⅱ類 (Vu)	絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧 (Nt)	存続基盤が脆弱な種
情報不足 (Dd)	評価するだけの情報が不足している種
留意種 (N)	保護に留意すべき種
絶滅の恐れのある地域個体群 (Lp)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

「北B」

北海道ブルーリストのカテゴリ 「北海道の外来種リスト -北海道ブルーリスト 2010- 北海道ホームページ(2010年)」

A1	緊急に防除対策が必要な外来種
A2	本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種
A3	本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている外来種
B	本道に定着しているが、影響等が報告されていない、あるいは懸念されていない外来種
C	本道に定着しているか不明またははっきりしないが、影響等が報告または懸念されている外来種
D	本道に定着しているか不明またははっきりしないが、影響等が報告されていない、あるいは懸念されていない外来種

陣屋(S46) : 白老町教育委員会(1971) 『白老町の仙台陣屋址の植物目録』

萩の里(H7) : 白老町(1995) 『白老町シンボル公園自然環境調査報告書』

ポロト(H14) : 白老町(2002) 『ポロト湖畔低湿地帯の植物調査報告書』

ウヨロ(H18) : NPO法人ウヨロ環境トラスト(2006) 『ウヨロ川中下流域の里山自然環境調査報告書』

## 参考資料6 航空写真

### 1 昭和 23(1948)年 9月に米軍が撮影した航空写真



### 2 昭和 51(1976)年に撮影した航空写真





## 参考資料 7 参考文献

- 岩波書店(1998)『広辞苑第五版』  
NPO法人ウヨロ環境トラスト(2006)『ウヨロ川中下流域の里山自然環境調査報告書』  
環境庁(1981)『第2回自然環境保全基礎調査植生調査報告書』  
環境庁(1988)『第3回自然環境保全基礎調査植生調査報告書(北海道)』  
北海道廳(1916)『北海道史「附録地圖白老の仙臺陣屋址」』  
財団法人アイヌ民族博物館(2003)『アイヌの足跡』  
佐藤宏一(1975)『東蝦夷地仙台藩陣屋考』  
佐藤宏一(1995)『仙台藩白老元陣屋資料館報第1号「白老元陣屋管見」』  
佐藤宏一(2010)『仙台藩白老元陣屋資料館報第15・16合併号「仙台藩白老元陣屋絵図管見」』  
三省堂(1995)『大辞林第二版』  
小学館(1995)『大辞泉』  
白老町(1995)『白老町シンボル公園自然環境調査報告書』  
白老町(1997)『白老町萩の里自然公園(シンボル公園)自然環境調査報告書』  
白老町(2002)『ポロト湖畔低湿地帯の植物調査報告書』  
白老町(2012)『白老町都市計画マスタープラン』  
白老町(2015)『白老町地域防災計画』  
白老町(2016)『白老町教育推進基本計画(白老町教育大綱)』  
白老町(2019)『白老町森林整備計画変更計画書』  
白老町(2020)『第6次白老町総合計画』  
白老町(2020)『令和2年度白老町統計書』  
白老町教育委員会(1970)『史跡白老仙台藩陣屋跡土塁鑑定調査書』  
白老町教育委員会(1971)『白老町の仙台陣屋跡の植物目録』  
白老町教育委員会(1982)『史跡白老仙台藩陣屋跡Ⅰ－昭和56年度環境整備事業概報－』  
白老町教育委員会(1984)『史跡白老仙台藩陣屋跡Ⅱ－昭和58年度環境整備事業概報－』  
白老町教育委員会(1985)『史跡白老仙台藩陣屋跡Ⅲ－昭和59年度環境整備事業概報－』  
白老町教育委員会(1986)『史跡白老仙台藩陣屋跡Ⅳ－昭和60年度環境整備事業概報－』  
白老町教育委員会(1986)『史跡白老仙台藩陣屋跡保存管理計画』  
白老町教育委員会(1989)『史跡白老仙台藩陣屋跡樹木調査報告書』  
白老町教育委員会(1996)『史跡白老仙台藩陣屋跡環境整備事業報告書』  
白老町教育委員会(2001)『白老町の文化財ガイドブック』  
白老町教育委員会(2015)『第2次白老町社会教育中期計画』  
白老町町史編さん委員会(1992)『新白老町史(下巻)』  
白老町町史編さん委員会(1992)『新白老町史(上巻)』  
高橋梵仙(1974)『江刺足輕文書』  
戸祭由美夫(2018)『絵図にみる幕末の北辺警備 五稜郭と城郭・陣屋・台場』  
永田方正(1972)『北海道蝦夷語地名解』  
文化庁文化財部記念物課監修(2005)『史跡等整備のてびき－保存と活用のために－』  
文化庁文化財部記念物課監修(2010)『発掘調査のてびき－集落遺跡発掘編－』  
文化庁文化財部記念物課監修(2013)『発掘調査のてびき－各種遺跡調査編－』  
文化庁文化財部記念物課監修(2015)『史跡等・重要文化的景観マネジメント支援事業報告書』  
文化庁文化財部伝統文化課監修(2015)『平成26年度文化財の効果的な発信・活用方策に関する調査研究事業報告書「文化財の効果的な発信・活用ガイドブック」』  
北海道大学附属図書館編(1990)『日本北辺関係旧目録』  
北海道庁(1924)『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』  
北海道立アイヌ民族文化研究センター(2007)『アイヌ地名を歩く～山田秀三の研究から～』  
松浦武四郎(著)・吉田常吉(編)(1984)『新版東蝦夷日誌』  
松木覚(1978)『北に生きる武士団』山川出版社(1997)『日本史広辞典』  
吉川弘文館(2006)『日本軍事史』